

1995年6月1日発行(通巻6号)

発行責任者 小池欣一(理事長)

編集責任者 森眞由美(普及広報委員長)

発行：財団法人 骨髄移植推進財団  
〒160 東京都新宿区新宿1-4-8 新宿小川ビル4F  
TEL.03-3355-5041 FAX.03-3355-5090  
郵便振替口座：00130-2-609313

日本骨髄バンク

NEWS

ニュース

## 「拝啓、ドナー様」患者さんからの手紙

骨髄バンクによる骨髄の提供は、ドナーと患者さんが特定できないシステムになっています。しかし、骨髄バンクを介した手紙のやり取りは認められています。患者さんとその家族から、骨髄提供者に宛てたお手紙をご本人の了解を得た上で、その一部をご紹介します。

### その1

初めまして、顔も名前も存じませんが、顔も名前も知らない私のために骨髄を提供して下さい、本当にありがとうございます。あなたというドナーに巡り会えて、幸せに思います。せっかくいただく骨髄が活かされるように、頑張っていきたいと思えます。あなたのおかげで、私は生きていくことができます。命の恩人です。(中略)

移植にあたり、あなたの骨髄と一緒にあなたの優しい心を受け、元気になったらたくさんの人々に分け与え、社会に役立っているように看護婦として頑張っていきます。

私のためにたくさんの時間を費やしていただき、そして苦痛にも耐えていただき、本当に本当にありがとうございます。あなたのためにも頑張ります。どんなにつらい時でもあなたの気持ちを思い、支えにし、前進して必ず健康を手に入れようと思えます。

(慢性骨髄性白血病の女性・移植時20歳)

### その2

お心たいへんうれしく思い深く感謝しております。更に喜んでいただけるよう、これからの数週間頑張っていくつもりです。無菌室から出られるようになったら、また近況報告させて頂きたいと思っております。本当に有難うございます。(母)



急性骨髄性白血病の女兒(移植時5歳)からドナーにあてた手紙(絵)

### その3

拝啓、我が子の命を救って下さいましたドナーの方へ。

はじめまして、私はあなた様に骨髄液をいただきました娘の母親です。この度は本当に本当にありがとうございました。(中略)見も知らぬ他人に、ご自分の尊い命の一部を提供して下さいましたあなたの尊い命の一部を受け継がせて頂いた娘は、今、元気に高校に通えるようになりました。

(中略)いつかHLAの合う方が娘を助けてくれると信じて生活してまいりましたが、それがあなた様のお陰で現実とする事が出来ました。本当に命の恩人です。とても素晴らしい方に違いないと思えます。お会いして、ひざまずいて娘と2人でお礼を述べたいのですが、バンクの規約でそれも出来ないかもしれませんが、本当にありがとうございます。針を刺した後が痛んでおられないでしょうか?案じております。(後略)

(その娘より)

はじめまして、こんにちは。私は骨髄をいただいた本人です。この度、私に骨髄を下さりましてありがとうございました。お礼の手紙が遅くなってしまいまして申し訳ありません。私は7年前から骨髄を誰かにいただかなければならない病気にかかってしまいました。小学3年生の時からです。私の病気は血が止まりにくく体の中の血液が人の3分の1ぐらしかない病気でした。今までの7年半はろくに学校にも行けず(中略)運動会などもいつも見学でした。そんな時は「私の体が健康だったら」といろいろと悩みました。(中略)

私にはどなた様かわかりませんが、あなた様の骨髄液が私の体の中に入っている時、私はありがたい気持ちでいっぱいでした。おかげ様で今ではすっかり良くなって10月に退院しました。本当にどうもありがとうございました。心から感謝しております。(後略)

(重症再生不良性貧血の少女・移植時15歳)

## 頑張れ骨髄バンク、私も応援しています。

田中好子(女優)

今から10年前の昭和60年、義妹の夏目雅子が急性骨髄性白血病のために他界しました。当時、担当の先生より治療法の一つとして骨髄移植のお話を受けたが、日本ではまだ実施された例が少なく、主人と義妹は移植技術の先進国と呼ばれるアメリカに渡りました。いろいろと手を尽くしましたが、残念ながら身内に適合する者がなく、アメリカでもHLAが適合する人は見つからず本当に悔しい思いをしたようです。その後、日本でも骨髄移植が急速に広がり、平成3年末の骨髄移植推進財団の誕生とともに、いよいよ日本でも非血縁者間の骨髄移植が夢の治療法から、現実の世界へと限りなく近づいてきました。人が人を救える社会…。こんな素晴らしい輪をめざして、私も少しでもお役に立つのならばと思っております。



# 密着！移植病院24時

骨髄移植はどのような病院で、どのようにして行われているのでしょうか。骨髄バンクに登録しているドナーに限らず、多くの方たちが興味のあるところです。骨髄バンクによる骨髄移植の行われている病院は、移植設備のある病院ならどこでもよいというわけではありません。実績のある経験豊富な病院が財団の認定病院に指定されています。

また、登録者の皆さんがドナーに選定された場合、入院して骨髄を採取する病院も財団の認定病院です。

今回、都内のある財団指定の認定病院にお邪魔して、スタッフの仕事ぶりや施設などを細部までじっくりと拝見させて頂きました。

こちらの病院はこれまでに、最もたくさんドナーから骨髄を採取している病院です。毎週のようにドナーからの骨髄採取を行っています。

また、骨髄移植に欠かせない密度の高い空を無菌室がある室あるほか、15床の準無菌室のある無菌病棟があり、血縁者間の骨髄移植はもちろんのこと、骨髄バンクによる非血縁者間の移植も積極的に実施されています。

さて、ちょうど骨髄バンクのドナーKさんが入院して来ました。まわりはもちろん病人ばかり、健康なKさんは場違いにも見えてきます。看護婦さんたちはドナーを特別扱いしてくれますが、当然のこととして他の患者さんたちの看護もあり、通常業務とのギャップが大変そうに見えました。この病棟の看護婦さんは、点滴を1日に何本も必要とする患者さんや、食事や排泄の介助の必要な患者さんもたくさんかかえています。えっ！そんなことまで、と驚くほどの多種多様な仕事があり、看護婦さんたちは大忙しです。

Kさんがパジャマに着替え、まわりの雰囲気にとけ込んだころ、Kさんの骨髄採取の総監督となるT医師や担当する何人もの医師が病室にやってきました。いろいろと挨拶や説明を済ますと、各々忙しい職場へと戻って行きました。

入院してすぐのKさん（後ろ姿）が医師たちから説明を受ける。



病棟看護婦による朝8時半の引き継ぎミーティング

ところで、T医師は骨髄移植を控えた患者さんや移植を済ませた患者さんたちのいる無菌室や一般病棟そして医局から研究室等を行ったり来たりと、休む暇もなく精力的に働いています。こちらが話を聞こうにも、移動するところを捕まえて歩きながら話すしかありません。

外来診療が担当の日などは、朝9時半から診察を始めて、終わったのが夕方5時半でした。その間は休憩もなしで、やっと終わったと思ったら今度は会議のため外に出ます。移動の車の中でパンをかじりますが、これが何と昼食でした。

その後も状態の気になる患者さんがいるとのことで、夜10時過ぎに病院に戻り、翌朝まで徹夜。実はその前日と翌日も徹夜状態でした。忙しいのは他の医師たちも同じこと。毎晩、消灯後の10時を過ぎても看護室でカルテやレントゲン写真に見入る何人ものスタッフの姿がありました。



夕方6時半に車中でパン、これがT医師の昼食。



無菌室の患者さんが着用する下着を滅菌中、大きなものは布団から電気器具まで、さらに手紙などの私物や服用する薬まですべて無菌処理する。（中央材料部）

点滴番の看護婦さん、朝8時から午後3時までひたすら点滴の薬剤を調合している。





無菌室に隣接する無菌エリア内でスタッフミーティング(夜9時半)

ドナーのKさんは麻酔担当のY医師より麻酔についての細かな説明を受け、緊張のためか浅い眠りの一夜を過ごして、骨髄採取の当日を迎えました。

起床は6時。麻酔前処置の注射をし、手術着に着替えたりと準備を済ますと、9時過ぎに緊張の面もちでいざ手術室に出陣となりました。看護婦さんと交わす言葉の中からも緊張が伝わってきます。手術室では麻酔医のY医師にマスクを口にあてられると一瞬のうちに深い眠りに入りました。すべてを忘れたかのように寝ているKさんの体に、最先端技術の各種センサーをとりつけ、麻酔管理体制は万全です。安全を確認して採取担当医たちが持ち場につき、腸骨に針を刺して流れるような手際よさで骨髄液を採取していきます。採取終了は10時50分。ほどなくKさんは麻酔から目覚め病室に戻って行きました。採取された骨髄液1,005ccは移植患者の待つ病院から来た医師に手渡され、すぐさまタクシーに乗って患者の元へと運ばれて行きました。



Kさんのお尻への最初の一针の瞬間(朝9時半)



採取から丸1日間はなかなか食べられなかったKさん、翌日の夕方には食欲が戻った。



今日はKさんの退院、骨髄バンクのコーディネーターがやって来た。入院日、採取日とこれで病院へは3回目。

その日の午後3時過ぎ、今度はこの病院で骨髄移植を受ける患者さんのために、よその病院から骨髄液を受け取りS医師が帰ってきました。

この骨髄を提供したドナーと移植を受ける患者さんは、ABOの血液型が異なるため、移植するには赤血球を除去しなければなりません。骨髄液は輸血部の手でゆだねられました。4時間もかけて繊細で様々な処理をして、骨髄幹細胞が取り出されました。ただちに移植を待つ患者さんがいる無菌室へと運ばれます。

患者さんもまわりのスタッフも平然とした面もちで移植が始まりました。とは言っても、ただいつもの点滴をしているようにしか見えません。しかし、その場の雰囲気は希望に満ちたすがすがしさが確かに感じられました。



大切なドナーからの骨髄液を持ってS医師が帰ってきた。



届いたドナーの骨髄液は輸血部で赤血球除去処理

今回の取材を通し、医師や看護婦さんをはじめ、薬剤師や無菌食をつくる栄養課のスタッフ、放射線技師や検査技師など病院中の実にたくさんのセクションの医療スタッフにより、骨髄移植の現場が支えられていることがわかりました。しかも、スタッフの献身的な努力と好意によって、現在の骨髄移植が成り立っていました。少しでもこうした移植病院の雰囲気をご理解いただければ幸いです。

撮影/桐野江直樹

# ドナー座談会「遠慮なく体験を語り合おう」

骨髄ドナーとなられた方は、各人それぞれの事情により、様々な過程を経て提供されていると思います。先日、骨髄提供をされたドナーの方8人にお集まり願ひ、その貴重な体験を話し合っていました。そのときの模様をここでご紹介します。今後ドナーとなられる可能性のある登録者の皆様に、こうした体験談が何かの参考になればと思います。

## 出席者(発言順)

村上 洋子さん 提供時30歳 自営業 愛媛県在住  
塚田 信弘さん 提供時26歳 医師 新潟県在住  
宮山 直子さん 提供時28歳 会社員 福岡県在住  
梅田 正造さん 提供時43歳 会社員 千葉県在住  
今里千加子さん 提供時31歳 タレント 京都府在住  
谷 真一郎さん 提供時40歳 教員 愛知県在住  
浅沼 一成さん 提供時29歳 公務員(医師) 秋田県在住  
中谷 光子さん 提供時49歳 主婦 東京都在住  
司会/大谷貴子 骨髄移植推進財団普及広報委員会副委員長

## 人生、何か一つ良いことを

司会 まず、ドナーになろうと思ったきっかけを教えてください。  
村上 これはあまり言うて欲しくないことですけど、失恋したとき、テレビに患者さんが出ていて「私に骨髄をください」って言うていたのを見て、パーッと登録を決めました。だからほかの人みたいに崇高な気持ちじゃなくて、失恋したの、ああ私が健康でハッピーなんだと思ったんですね。それに骨髄バンクを支援する会にも入っていたし、(適合する患者さんがいると知らせを受けた時は)不謹慎かもしれないけど、あとには引けないって感じでした。(笑い)  
塚田 ぼくは(医学部の)学生だったとき、患者さんを診ていて…、ドナーになりました。それまで献血も少ししてきましたし、体験が自分に役に立つと思いました。  
宮山 私は確か、大谷さん(司会者)の出ているテレビを見てからだったと思います。  
梅田 自分の人生を考えて、何かひとつ良いことをやらなくては何っていました。このまま死んでも何にも残らないし…。たまたま同じ職場に白血病でお子さんを亡くされた方がいて、現在その方と骨髄バンクのボランティアもやっていますので、一通りの知識はある程度持っていました。この活動の中で、患者さんの家族とも知り合いになったり、骨髄バンク支援のイベントで東ちづるさんと写真を撮ったり、だんだん深みに入って行ったというわけです。(笑い)  
今里 私は子供のころから他人のために何かやりたいと思っていましたので、たまたま知り合いの内科の先生の呼びかけで「骨髄移植」は私でしか救えないって気持ちで登録しました。リポーターとしていろいろな取材をしてきたことも関係しているかもしれません。  
谷 遠回りな言い方かもしれませんが、「適性」の問題ではないかと思っています。骨髄提供の危険性はゼロではないという程度の小さな確率ですが、人によってはそれが非常に苦になって「なんでわざわざ…」と二の足を踏む方もいらっしゃるわけです。自分はそういうことに鈍感で気にならない、ということです。一方では、老人ホームに行って世話をしたり、というようなボランティア、これは非常に苦手で、やったことがありません。つまり、ぼくの適性がたまたま骨髄バンクに向いていた、ということです。

## 当たった、来ちゃった、という感じ

司会 「三次検査のお願い」が来たときの気持ちを聞かせてください。  
村上 スコーン!これは行くぞと思いました。宝くじにあたったような…、やるしかない、前に進むしかないって気持ちでした。  
浅沼 ぼくも「当たったな」という感じず。一生にあるか無いか

のことでしょ。追い込まれた感じでなく、競馬で当たったような…。今里(登録後)2年ほどしてからでした。現実のものとなって「来ちゃった」という感覚でした。ネガティブな気持ちとポジティブな気持ちが半々くらいです。

谷 だいぶ待たされたので、特に何にも思いませんでした。  
中谷 私は「やったー」って感じでした。しかし、主人が反対するんじゃないかと直感しましたので、一晩は主人には何も言いませんでした。翌日「実はねえ…」と切り出したんです。その後、看護婦さんに「年齢がぎりぎり(ドナーの年齢制限は50歳まで)なのに、ラッキーでしたね」と言われ、うれしく思いました。看護婦さんのこの一言はとても良かったと思います。

宮山 登録から2年経っていたので「やったー」と思いました。その後も2カ月まったく連絡がなかったので心配だったけど(提供が決定した時は)やっと当たったという感じでした。

## 家族も結局は熱意で

司会 ご家族の同意や反対はどうかでしたか。  
梅田 家族の反対はありませんでしたが、家内が麻酔に関しては心配してコーディネートの時に多くの質問をしていました。しかし、ドナーに決定と連絡を受けた翌々日の最終面談日にはすぐに同意の印を押してくれました。それで私の方は入院時の仕事の調整をじっくりやりました。会社にはドナー休暇制度がありませんでしたが、人事課長が出勤扱いにしてくれました。  
中谷 息子は「いいよ」と言ってくれたんですけど、主人は反対しました。一週間くらい、印がもらえず、悩んで悩んで…。結局は私の熱意ですね。「もしものことがあっても死んでもいい、麻酔で死んでも事故で死んでも本望」とまで言ったので、主人も、最終的には印を押してくれました。主人も大きく変わりました。  
宮山 父は反対でした。男の人って意気地がないですよ。(笑い)母の方は何とか行けそうだと思ったので、情に訴えると「ここまで言い出したらきかないから」と言って同意してくれました。そのうち病氣と闘っている患者さんの写真を見せると、ポロポロ涙を流して「頑張ってるね」と言ってくれました。父には「患者さんが死んだら、パパのせいよ」って脅かしたんですけど。(笑い)提供後は手のひらを返したように、まわりの人に得意げに話していました。  
浅沼 結婚したばかりだったので、母が「何かあったらどうするの」と反対しました。「何かあったら、保険もあるし…」(笑い)とは言うてみたものの、弱気になったこともありました。反対に妻の方から「困った人のためにも頑張る」と励まされたりしました。要は、家族も職場も社会のサポート体制が大事なんですね。  
谷 妻も理解してくれて、家族の反対はなかったんですが、5歳の娘がお父さんがどうなってるかと心配するだろうなと思いました。  
村上 入院する前夜は、近くの温泉に行ってご馳走を食べ、母が「生きて帰ってきなさいよ」と言ってくれて一緒に過ごしました。  
浅沼 ぼくは逆に「終わったら温泉に行こうね」って言ったので、家族がホロっとしたみたいでした。

## 風邪をひかぬよう、運転にも気をつけて

司会 最終同意から提供までのあいだ、気をつけたことやプレッシャーを感じたことはありますか。  
村上 ここで交通事故でもしたら、病氣したら、患者さんは死んでしまいますよね。一ヶ月車の運転には気をつけました。

塚田 私は一ヶ月半、怪我をしないように気をつけましたし、お酒も飲まないようにしました。

宮山 階段から落ちないように気をつけました。(爆笑)いえ、私ってほんとによく階段で転ぶんです。

梅田 風邪をひかないように特に気をつかいました。風邪が流行っていた冬で、まわり中が風邪をひいていたので手洗いとかいは3カ月くらいは続けました。緊張していたせいか、とうとう風邪はひきませんでした。あとは車の運転を慎重にしたことかな。

今里 最終同意をとるまでが大変だったから、同意後は少し気が楽になりました。二つの命を預かっているという感じでした。

### 何でも事前に言っておいて欲しい

司会 コーディネート時に何か気づかれた点はありましたか。

中谷 大変良く説明してくださったと思います。ただ、主人が「あと10年もしたら、もっと違う治療法ができるのでは」と質問したら、コーディネーターに「いま苦しんでいる患者さんはどうするんですか」と言われました。あとになって「コーディネーターが患者さんの側にたって言っているのではないか。ドナーに対して、公平中立という立場からはおかしい」という意見を聞きました。私としては公平中立をおかしたとは思いませんでした。

宮山 私のコーディネーターは小児科の先生だったので、子供に言うみたいに細かく教えてくださいました。私は明日にでもと言ったんですが、先生の都合でどんどん遅れてしまい、そんなことをしているうちに患者さんが死んでしまうのではないかと心配でした。

司会 先生にそのことをおっしゃいましたか。

宮山 はい。「大丈夫ですよ」と言われました。

梅田 家内が臨床検査技師ですので、ある程度専門的な質問もしていましたが、ていねいに答えてくれました。ただ、私と家内とコーディネーターとの日程をあわせるのが大変でした。それに、最終同意をしてから、いつまで経っても連絡がなくて困りました。

今里 私は京都でコーディネートを受けて、実際の採取は日程の都合で大阪の病院になりました。問題点とすれば、最終同意に立会人がいるとか、いろいろな人が集まる日程調整の大変さですね。ドナーの都合を優先となっていますが、入院にしても結局は月曜入院、水曜採取、土曜退院、というように病院のシステムが決まっているので…。諸事情はわかりますが、もう少し何とかありませんでしょうか。難しい問題があるとは思いますが。

中谷 麻酔をするときに洗腸するのは当たり前かもしれませんが、私は知りませんでした。当日の朝「洗腸します」と言われて急に吐き気がして、気持ちが悪くなりました。初めに言っておいてくれた

ら心の準備もできていたのにとおっしゃいました。

梅田 私は逆にコーディネート時に洗腸の説明があったのに、病院で「やりません」と言われました。(私も私もという声)

司会 採取病院によってやり方はいろいろあるようですね。ところで導尿カテーテルについてはどうでしたか。

梅田 導尿はコーディネート時の説明の通りありました。私の場合カテーテルの先が膀胱に当たったのかもしれませんが、看護婦さんが採取当日の夜1時間おきにきて尿の量を見た後、尿をチャポンと移す度に膀胱のところにズキーンときましてね。これがイヤでした。

村上 洗腸は私もしませんが、聞いてなかった話という点では、マルク(骨髄穿刺)の検査があったんです。

司会 えっ? 事前マルクがあったんですか。

村上 あったんです。いきなり「骨髄をとります」と言われました。ところが、これが麻酔がすごく痛いでしょう。神経の隅々まで薬が行き渡るというような感じで、今までの人生でいちばん痛いことでした。看護婦さんに押さえつけられて…。すごくつらかったです。

司会 マルクは血を造る能力を調べるためのものですが、末梢血で充分評価できるようになっているということです。ところで、骨髄提供時の採取に関して、私はいつも「メスやハサミは使いません」と話しているんですが。

塚田 私の場合は切りました。切るといっても、ずっと刺すくらいで、あとで一針縫いました。

(同席した秋山医師より)全国で3~4施設でやっています。切ることのメリットは傷跡がきれいだということです。そのほかに採取方法では、採取の皮膚の穴の数の違いがあります。多いところでは50~60カ所刺しますが細い針を使いますから意外とあとの痛みが少ないこともわかってきました。個々の施設で充分説明していただく必要があると思っています。

### きめ細かなフォローアップを

村上 私は小柄で体重は40kgを切ることもあります。コーディネート段階で「約1リットル採るが、自己血を600cc採っておいて、それを戻すから大丈夫」と言われて素直に信じていたんですが、回復まで約1カ月位かかりました。実は自己血を採ったときからドキドキするし、おかしいなと思っていました。1週間は寝たきりの状態でした。大人気ないし、つつい我慢した私も悪かったんですが、私の体に対して採取量が多いか少ないかはきちんと教えてくださる方がいればと強く思いました。採取後3週間目には、下痢と嘔吐が始まりました。我慢できなくなって採取した病院に行きました。採取とは関係ありませんでしたが、私の体が弱っていたので、どこか



村上洋子さん

塚田信弘さん

宮山直子さん

梅田正造さん



今里千加子さん

谷真一郎さん

浅沼一成さん

中谷光子さん

らかウイルスが入ってしまったようです。

司会 事前にその辺の説明を受け、体調が悪かったときにすぐ連絡して相談できる人がいれば、予防もできたかもしれませんね。

村上 私は我慢強いというか、結構「大丈夫、大丈夫」と言う方なんです。そのくせ陰で泣いたりするたちなので、それも良くなかったと思います。

司会 今では採取後は定期的に細かい間隔でコーディネーターから電話が入るなど、ドナーのフォローアップ体制が作られました。これも、村上さんの事例などが参考となって、つらかった体験が今の骨髄バンクのシステムに生かされるようになって来たわけです。

梅田 私は新しくコーディネーターになった方から1週間おきに電話をもらいました。採取痕が皮膚炎になって「かゆい、かゆい」と言っていたので、2カ月間完全にフォローしてくれました。しかし採取病院からは「最終検査の結果を知らせますよ」と言っていたのに、結局連絡は来ませんでした。

## 健康者の入院生活

司会 それでは入院した病院の対応はどうだったでしょうか。

浅沼 良かったです。私の母校の付属病院だったからという良さもありましたし、個室前提ということで、いい部屋に入りました。

塚田 私も個室です。知っている人が多く、お見舞いばかりでした。

中谷 私は相部屋でした。白血病の患者さんと一緒になったんです。その方は、入室の際にはいちいち手を消毒されて、マスクをして粘着マットを踏んでから入るのです。その患者さんにはまだドナーが見つからない状態でしたが「ありがとうございます。自分に骨髄をもらった様でうれしいわ」と言われた時には、「ああ、こういう人たちが全国にいっぱいいるんだから頑張らねば」と思いました。患者さんと同室だったことは、とても良かったと思っています。

宮山 私は個室でした。病院では何かにつけてすべてに「ドナー」と書くようで、婦長さんや看護婦さんに「ご苦労様です」と言われて、こんなにも仰々しいことなのかと思いました。

## 痛みは十人十色

司会 いちばん気になる採取後の痛みはどうでしたか。

塚田 痛みは我慢できる程度で、切り傷のようなズキズキするような痛みですね。提供の3日後からは普通に仕事ができたとします。1週間くらいは歩くと痛みが響きましたが、仕事に差し支えるような痛みではなく、夜眠れないほどの痛みでもありませんでした。

中谷 私はこういう(前屈した)姿勢をすると、痛いなど2週間くらい感じました。寝ていて姿勢を替えるとき、傷跡がベッドに当たると痛かったですね。でも、退院したその日から家事はやりました。

宮山 痛い痛いと言っていたので覚悟はしていたかもしれませんが(笑い)、あまり痛いとは感じませんでした。私はよく階段から落ちるんですが(笑い)、そんな程度の痛みです。ハイヒールでカッカッと歩くとちょっと気になるかな、という痛みです。

梅田 採取当日の痛み、あれはズーンというような痛みです。ただ、この痛みより点滴と導尿の管がついていて、寝返りがなかなかできないので、背骨が痛くなってきて、こちらの方がつらかったですね。翌日は管が抜けたからスタスタ歩けました。

村上 腰を動かすと痛いので、振動を与えないようにしてロボットみたいな動きをしていました。私の仕事は線を引いたりするので前かがみになります。日常生活には支障はありませんでしたが、仕事の時はつらかったように思います。

司会 完全に回復したな、と思われたのはどのくらい後ですか。

村上 私は例外かもしれませんが、回復までかなり時間がかかりました。もとの状態に戻るまでには半年はかかったと思います。

今里 採取後は痛みを止める特別な装置をつけてもらいました。麻酔があわなかったのか、38度の熱が2日くらい続きました。満員電車では、まわりの人がぶつかってこないように神経を使いました。提供から1年が経ち、採取の傷跡はほとんどありません。

谷 申し訳ない気がするんですが、痛みはほとんど無かったんです。

お医者さんに「麻酔はとづくに切れているんですが…」と言われて「えーっ」という幸運なケースです。翌月、修学旅行で生徒と風呂に入ったとき「なんだ、なんだ」と言われましたので、「何だろう」と思うような跡が残っていたのだと思います。骨髄も濃かったらしく、手術室の中で歓声があがったと後で聞きました。

## ありがとう…の一言が励みに

司会 提供したことを今どう思っておられますか。

塚田 自分が選ばれたことは良かったと思いますし、一生の誇りにしていきたいと思っています。

中谷 こういう機会は一生に1回か2回でしょう、何しろ「やったー」という気持ちです。

宮山 私も楽しかったからだと思いますが、他人に直接役に立てたと思えることができ、本当に良かったと思います。

梅田 ここにご家族からいただいた手紙があるんですが、大事な一人っ子のお子さんが病気になり、命に代えても助けたいと書いてあるんです。この手紙をもらって、本当に良かったなどと思っています。(うなずいて)そして、ほっとしています。

司会 患者さんからお手紙をもらった方は?(3人が手をあげる)

村上 提供した当日にももらいました。

司会 やはり「ありがとう」の一言はうれしいですね。

浅沼 少なくとも骨髄が届いたかどうかは知りたいですね。

谷 そんなものは全然いらぬという人もいますね。手紙をもらわなくても、特に不満はありません。知らない良さもありますから。

司会 手紙をもらうためにやったんじゃない、ということはあるでしょうね。

浅沼 何しろ私にとっては好いチャンスでした。改めて、命とか人生を考える機会が自分に与えられたと思います。確かにリスクは考えましたが、それでもやっぱり救いたい命があり、救わなければならぬ命がある、私の骨髄で100%助かるわけではないけれど、希望が持てますよね。やらなかったらゼロですから。60~70%かもしれないが、助かるという夢が持てるんです。

今里 自分に対して自信も持てましたし、一つ良いことをしたなど自分を誉めてあげたいですね。

谷 そのままだったら亡くなってしまおう人を、6割なら6割の確率で助けることができる。すごい数字ではないかと思うんです。文句なしの善、というのを一度やってみたかったんです。芥川龍之介の「くもの糸」というのがありますね。ああいう感じなんです。

## 骨髄バンクへの提言

司会 それでは骨髄バンクへご意見をお聞かせください。

梅田 一次と二次の検査は同時にやって欲しいです。また、平日以外の検査もぜひ検討していただきたいと思います。

浅沼 ドナー側に立って「ドナーになって良かったよ」ということをもっとPRをした方が良いと思います。ドナーの体験を話し合う「ドナークラブ」のような場も必要ではないでしょうか。また、冬の北の地域にとって骨髄を運ぶ交通手段も大きなテーマです。

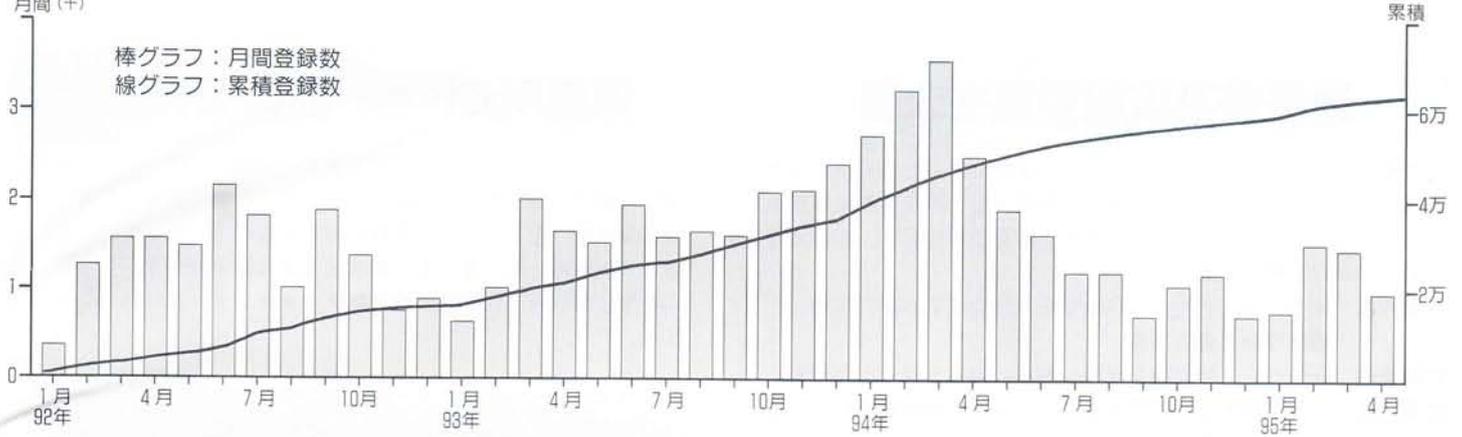
村上 たまたま私の場合は稀な例かもしれませんが、もう一度提供するか、と言われたら「わからない」と答えると思います。提供したことに後悔はありませんが、体調が完全にもどるのに半年近くもかかり、その後も仕事の後かたづけなどで1年間大変だったんです。感情に訴え、きれいな事を言うけれど、実際には差があるんだ、ということ。私の場合はその後のフォローがなかったので、親もかんに怒ってしまっていて、骨髄の話はタブーになっているんです。でも、骨髄バンクがつかった人の話を聞いてくれて、改善してくれている誠意が感じられて安心できるようになりました。

浅沼 これは骨髄だけでなく一般医療も含めてですが、インフォームド・コンセントなりフォローアップが、いまだにうまく行っていないという事例もあります。骨髄バンクを通した「提供」は、医療現場にそういうことを再考させる機会でもあると思います。

司会 今日は貴重なご意見をありがとうございました。

# 日本骨髄バンク コーディネートの状況

ドナー登録の推移  
月間(千)



日本骨髄バンクはドナー登録者数の伸びにより、適合するドナー候補者も増え、骨髄バンクを通した骨髄移植は今年に入り、月間30例ほどのペースで順調に実施されています。骨髄バンク事業のこれまでの経過と現状についてご報告します。

- 平成3年12月 骨髄移植推進財団発足、骨髄データセンター開設
- 平成4年1月 ドナー登録検査開始
- 平成4年6月 患者登録開始
- 平成4年9月 コーディネート開始
- 平成5年1月 骨髄移植開始、第1例
- 平成6年2月 骨髄移植100例達成
- 平成6年5月 ドナー登録者5万人突破(有効登録者)
- 平成6年9月 骨髄移植200例達成
- 平成7年5月 骨髄移植400例達成

現在の有効ドナー登録者数は今年4月末日現在で63,524名で、実施された骨髄移植も381例となり、移植例は5月中に400例となることが確実です。

また、最近では二次検査済のドナー数が増大したことにより、最近

の検索状況では登録している患者さんにドナー候補が見つかる適合状況の確率は6割程度となっています。

さらに、コーディネートと三次検査の適合にともない、移植可能な組み合わせも急激に増加しています。公的骨髄バンク事業は開始から3年を経過し、いよいよその機能を本格的に発揮する時期となりました。

なお、最近の傾向では、適合ドナー候補者のある患者さんも、複数のドナー候補、特に3名以上のドナー候補者を持つ患者さんが6割以上となっており、より適合するドナーとの移植が可能となりました。

その一方で、まだ3割ほどの患者さんには、1人も適合ドナーを見出すことができていません。患者さんが生きるチャンスを大きくするためには、一日も早い10万人のドナー登録者のいる骨髄バンクにしていく必要があります。

骨髄バンクによる骨髄移植の実施状況は別表の通りですが、今年3月末日までに移植した352名の患者(2名の再移植があり総移植例は354例)さんのうち、生存者は215名(退院112名・入院中103名)で、残念ながら137名がお亡くなりになっています。

登録・適合検索・コーディネート・移植の推移

内 容		93年3月	94年3月	95年3月	
登録状況	患者登録	921名	1,803名	2,880名	注1
	ドナー登録 (二次検査済)	20,013名 (6,878)	46,350名 (21,428)	62,527名 (38,330)	注2
検索状況	二次適合患者	349名	1,048名	1,873名	注3
	二次適合ドナー	891名	3,289名	6,638名	
コーディネート状況	三次検査済患者	123名	496名	1,076名	注4
	三次検査済ドナー	161名	946名	2,108名	
	最終同意・移植準備	26組	176組	508組	注5
移植状況	骨髄提供・移植完了	8件	123件	354件	注6

- 注1. 患者登録数は累計数で、検索中止・登録取消を含む。
- 注2. ドナー登録数は取消を除く有効登録数。
- 注3. 二次適合は患者・ドナーとも累計数。
- 注4. 患者の病状等確認の上、ドナーコーディネートの結果実施した三次検査の累計数。  
※三次検査の適合確率は3～6割程度。  
※患者病状変化による中止件数を含む。
- 注5. 同意後の患者病状変化等による中止を含む。
- 注6. 同一患者の再移植2件を含む。

都道府県別有効ドナー登録者数と登録患者累計数(1995.4.30現在)

	提供希望者	患者		提供希望者	患者		提供希望者	患者		提供希望者	患者		提供希望者	患者
北海道	4,381	117	埼 玉	1,352	151	岐 阜	939	38	鳥 取	271	13	佐 賀	384	28
青 森	515	11	千 葉	1,613	131	静 岡	1,822	82	島 根	435	26	長 崎	611	28
岩 手	460	18	東 京	10,690	246	愛 知	3,884	212	岡 山	1,035	60	熊 本	663	38
宮 城	1,205	31	神奈川	3,346	209	三 重	945	46	広 島	1,836	53	大 分	534	19
秋 田	520	14	山 梨	271	29	滋 賀	806	29	山 口	624	56	宮 崎	406	30
山 形	408	27	長 野	918	51	京 都	2,443	77	徳 島	334	19	鹿 児 島	838	35
福 島	887	41	新 潟	1,336	52	大 阪	5,161	224	香 川	392	23	沖 縄	443	13
茨 城	869	62	富 山	640	32	兵 庫	2,111	172	愛 媛	489	38	海 外	—	27
栃 木	796	49	石 川	609	36	奈 良	762	51	高 知	339	11			
群 馬	758	50	福 井	356	19	和 歌 山	417	29	福 岡	2,670	109			
合 計											提供希望者	63,524	患者	2,962

# お知らせ

## 地区普及広報委員を公募

骨髄バンクを発展させて行くために、地域にあったきめ細かな普及活動が必要です。そこで、積極的な普及啓発と募金活動を展開することになりました。全国に地区普及広報委員を配置し、意欲ある一般の方から公募します。

**活動内容** ボランティアとして各地で普及啓発事業の企画実行。交通費等の実費は支給。

**応募資格** 骨髄バンクの意義を理解し熱意のある方はどなたでも。

**応募方法** 今年7月末までにハガキで応募申請紙を骨髄移植推進財団にご請求下さい。

〒160 東京都新宿区新宿1-4-8新宿小川ビル4F  
(財)骨髄移植推進財団まで

## ホセ・カレーラス公演8月に

世界的テナー歌手のホセ・カレーラス氏は白血病を骨髄移植で克服し、自ら「国際白血病財団」を設立して、世界的な援助活動を行っています。一昨年2月の来日時にはチャリティーコンサートに出演し、PR活動とともに多額の寄付をして頂きました。

今年夏も来日し公演が予定されています。8月8日には東京・渋谷の「オーチャードホール」公演では、アメリカン・エクスプレス・インターナショナル社のボランティア活動(メセナ)として、収益金を骨髄バンク支援のために寄付されます。

## オートレースから補助金

今年度も引き続き骨髄バンクの普及啓発事業に対し、日本小型自動車振興会(オートレース)より公益資金の補助事業とする旨の決定を頂きました。

## サポーター・賛助会員を募集中

骨髄バンクの機能を本格的に発揮させるためには、多くの資金が必要です。骨髄バンクのサポーターや賛助会員となり、善意のドナーと骨髄バンクを支えて下さるように、いま呼びかけをしています。個人・企業・グループで、骨髄バンクを応援して下さい。お振込先は下記の郵便振替口座です。

サポーター	1口	1,000円(何口でも)
賛助会員	年	100,000円(法人団体)
	年	10,000円(個人)
郵便振替口座番号	00130-2-609313	

本紙の発行については、日本赤十字社の協力により、すべての登録ドナーに送付させて頂いております。送付を希望されない方や、住所・氏名等の変更のあった方は、登録先の骨髄データセンターへお知らせ下さい。

## 保健所でドナー登録受付開始

昨年10月より一部の保健所でもドナー登録の受付ができるようになり、便利になりました。都道府県の協力を得て実施されるもので、各県数カ所、ところにより十数カ所の保健所で実施しています。一部未実施の県もありますが、順次拡大される予定です。実施保健所、日時等は都道府県(保健所)か骨髄データセンターにお問い合わせ下さい。

## 公募コーディネーターを全国配置

昨年春、ドナー候補者との連絡調整業務を行うコーディネーターを一般より公募しました。書類選考の上、養成研修を行い、実務研修課程を修了した研修生の中から114名のコーディネーターの委嘱を行いました。すでに、全国に配置され、ドナー候補者に対するコーディネート業務や提供ドナーへのフォローアップを担当しています。今後はより速やかで、きめ細やかなコーディネートが実施されていくことになります。

### 編集後記

◆阪神・淡路大震災の被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。被災地には骨髄バンクの患者・ドナー・医療関係者等も多く、医療施設も甚大な被害を受けました。幸いにも関係者の支援と努力と迅速な対応で速やかに復旧が進み、現在では通常の体制に戻っています。

◆鳥根県にお住まいの黒田芳子さんは骨髄バンクを通してご自分の骨髄を提供されたドナーです。その黒田さんがご自身の体験を「95NHK青春メッセージ」で発表され最優秀グランプリを受賞されました。心に届くさわやかな語り口が印象的でした。

◆財団の大谷貴子普及広報副委員長が「朝日社会福祉賞」を受賞しました。骨髄バンクの広報のため全国を飛び回る彼女は骨髄移植により白血病を克服した元患者です。その功績が認められた今回の受賞は骨髄バンク関係者全員の喜びでもあります。

◆今号の特集「密着！移植病院24時」はいかがでしたか。移植チームのスタッフは「とにかく人出が足りない。看護婦が月に10数回夜勤をしている。あと少しの医師と看護婦がいれば倍の移植が可能なのに…」と感想をもらっていました。移植施設が対応できない状況はますます顕著になっています。骨髄移植を実施している病院のスタッフは、骨髄バンクの稼働により急増する骨髄移植をこなし、ドナーの善意を生かすために、超多忙な毎日です。そんな一端を少しでも感じていただけたらと思います。

◆ドナー座談会ではドナーの優しい心遣いに感動するとともに、厳しいご指摘に緊張もしました。貴重なご意見を今後の骨髄バンクのために役立てたいと思います。